



学校だより

かけ橋

パート 2

横須賀市立汐入小学校 校長室

2012. 10. 22

No. 13

元気でやりぬく子
すすんで学ぶ子
思いやりのある子

歯みがきの習慣

汐入小では、食後の歯みがき習慣を身につけるために、6月・10月・2月に歯みがき週間を設けています。給食の後、各教室で取り組んでいます。また、校医の先生や歯科衛生士の方々のご指導もあり、毎年のようによい歯の学校として表彰されています。

毎年、市の集団歯科指導も行われています。今年も5月に行われました。以下のような目的で行われています。

- 1年生・・・歯の汚れを認識させ、みがき方を理解させる。
- 2年生・・・乳歯を大切にする態度を養い、歯のみがき方を習得させる。
- 3年生・・・各自の歯の状態に合わせたみがき方を工夫させ、習得させる。
- 4年生・・・むし歯の原因、予防について理解させ、むし歯好発部位のみがき方を習得させる。
- 5年生・・・歯の役割について理解させる。
各自の歯の状態を知り、工夫したみがき方を習得させる。
- 6年生・・・歯周疾患について理解させ、口腔状態にあわせたみがき方を習得させる。
- 特別支援学級・・・歯の汚れを認識させ、みがき方を理解させる。

大人向けの言葉で書いてありますが、歯科指導の授業自体は、授業見学にいらした方は、お分かりだと思いますが、とても分かりやすく、親しみやすい授業をしてくれます。

歯みがきの習慣が、継続するように、ご家庭での取り組みをよろしくお願いします。特に、3年生くらいまでは、お家の人の仕上げみがきが必要です。歯科衛生士の方からそのように言われています。

私が、子育ての頃は、「シュシュッシュ、シュツ、シュツ、シュツ・・・」「仕上げは、おかーあさん。」といった歌があり、その歌を歌いながら、仕上げみがきをした記憶があります。膝の上に、我が子の頭をのせながら、「今日は、なかなかきれいにみがけたね。」とか「いつも右の奥歯がみがけてないね。」などと言いながら、子どもと触れ合ったように覚えています。

「やらねばならぬ」と考えるのではなく、子どもと関わるきっかけができたと考え、楽しみながら関わってやれたらよいと思います。できる時期は、限られています。



運動会の声援

10月27日(土)に、140周年記念運動会が開催されます。今年は、140周年記念運動会ということで、例年にないプログラムがあります。

①「140周年記念 汐入体操」

例年行っている汐入体操ですが、今年は、140周年ということで、内容を一新しました。途中で、足ジャンケンがあったり、人差し指を突き上げてツンツンする動きがあったりします。最後に、隊形移動があります。子どもたちのかわいらしい動きにご期待ください。

②「汐入に架ける橋 140周年特別バージョン」

例年、5・6年生で行っている組体操。今年は、それに続く形で、全校児童による組体操を行います。現在、各学年が技を練習中です。各学年の技が組み合わさって、どんな「汐入に架ける橋」になるでしょう。当日が楽しみです。

③「たてわりメディシンボール」

運動会は、紅白の対抗で行う競技がほとんどですが、この競技は、たてわり班対抗です。1年生から6年生までの異学年の班で、春の遠足に行ったり、一緒に給食を食べたり、年間様々な交流をしています。今年は、140周年ということで、運動会の中でも、たてわり班の団結ぶりを見ていただきたいと思います。

運動会の準備は、秋休み前から始まっていますが、本格的な練習は、秋休み後です。今が、最後の仕上げの時期になっています。子どもたちも先生方もがんばっています。

先日、各ご家庭に運動会のプログラムをお配りしました。緑はお家の方用、白は子ども用です。子どもの中には、おじいちゃん、おばあちゃんの方まで、自分でコピーして、応援にきてくれるようお願いしている子もいるようです。

当日、大勢の方にご来校いただき、子どもたちのがんばりに声援を送っていただきたいと思います。

ある教育雑誌に載っていた記事で、ちょっと考えさせられる文がありましたので、載せました。みなさんは、どうお考えですか？

「秋晴れのある日、保育園の運動会を参観する機会を得た。大勢の観衆を前にして、子どもたちも最初は少し緊張気味だったが、張り切って演技を続けている。演技が最高潮になれば声援を送り、終われば拍手をする。意識してするわけではなく自然な反応である。

ところが、どこか違和感がある。観衆の多さに比べて声援や拍手が小さく、そのため自分だけが場違いの存在のように感じる。観客席を見ると、その原因は簡単に分かった。大半が、デジカメやビデオカメラ、携帯電話等を使っての撮影に熱中している。演技がクライマックスに近づくほど撮影に集中するので声が出せない。片手がふさがっているので、拍手も出来ないのだ。

後で、映像を見るのも楽しい。しかし、教育に即時性は欠かせない。頑張っている一瞬の生命のかがやきに感動し、声援や拍手の形でそれを即座に子どもたちに伝えることは、思い出を記録すること以上に大切ではないか。」



組み体操の練習風景です。